新生児の聴力検査

☆言葉の発達には聴力が必要です。

言葉を修得し知識を発達させるためには、聴力がとても重要です。
音の刺激を繰り返し受けることによって、脳が学習・発達し、言葉の意味を理解できるようになります。

☆聴覚障害を早期に発見できます。

聴力検査を行わない場合、赤ちゃん自身が症状を訴えることがないので 2～3 才頃になって「言葉が遅い」ことから、初めて難聴に気づくことが少なくありません。

☆早期治療・訓練が開始できます。

聴覚に障害がある場合でも、発見が早いほど、適切な治療や訓練によって聴力や言葉の発達を促し、ほかの赤ちゃんと同じように成長することができます。

☆検査の結果について

「pass（パス）」

先天性難聴は否定されたと考えられます。しかし、生後におこる中耳炎による難聴や、頻度はごく低いのですが、進行性難聴は発見できません。

「refer（要再検）」の場合

あくまでも精密検査が必要であるということで、ただちに聴覚障害を意味するものではありません。耳鼻咽喉科、小児科での精査が必要となります。

聴力検査のお申込書

ふりがな	
ご住所 電話番号	携帯TEL（　　）　　－
お母さんの お名前	（漢字）
	（ローマ字）
母子手帳に検査結果記入（　可　・　不可　）	

姫路聖マリア病院

〈スタッフ記入欄〉

ベビーID 〔　　〕

出生日　〔　　年　　月　　日〕

退院前日 〔　　年　　月　　日〕